

人 気 女 子 ア ナ

真 凛 二 十 四 歳

第 二 卷 女 子 ア ナ の 受 け た 過 激 な 罰

海 老 沢 薫 著

## 内 容

■ 著作権について

■ ま え が き

■ 第一章 半年ぶりに復帰した人気女子アナ

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 Web連載小説

■ 著作権について

「人気女子アナ 真凜二十四歳 第二巻 女子アナの受けた過激な罰」(以下本書と表記する)の著作権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によつて保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもつて許可し

た場合を除き、本書の一部、または全部を、

あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子フア

イル、ビデオ、テープレコーダー)により複

製、流用、転載、転売することを固く禁じま

す。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第

619条などの罰則がありますのでご注意ください

い。

■ まえがき

人気女子アナの小川真凜は、大物政治家である大場美枝子に仕掛けられた自身の薬物疑惑報道を打ち消し、女子アナ生命を守るために多くの国民が見守る前で前代未聞の記者会見を行った。そして大場の命令によって醜態の限りを披露する事になってしまった真凜はそれからすぐに夕方ニュース番組をはじめとする全てのレギュラー番組を降板し、テレビの前から姿を消していた。

前代未聞の記者会見から半年が過ぎようと、前代未聞の記者会見から半年が過ぎようと、話を持ち上げる。おもいがけない展開に、女子アナへの復帰をもう諦めかけていた真凜は大いに喜んだ。

そうして再び希望を見出した真凜だったが、半年ぶりのテレビ復帰となる舞台は、なんと天敵とも言えるタカエリがMCを務める深夜のクイズ番組の特番だったのだ。

タカエリとの絡みに真凛は戸惑ったが、女子アナとしての再起を果たすために覚悟を決め、クイズ番組の収録現場へと向かう。しかし、そこで真凛を待ち受けていたものは想像を絶する悪意に満ちた仕掛けの連続だった。本番直前の真凛の楽屋に挨拶に現れたタカエリから渡された本番で着る衣装と、脅迫の手紙。繰り出されるあまりに難解な問題の数々。そして、深夜枠特有の斬新過ぎる企画。収録現場のスタジオに設置されたステージ上で、高学歴の人気女子アナはどうしようもない程に恥を掻き続け、顔を紅く染め上げていくのだった。

■ 第一章 半年ぶりに復帰した人気女子アナ

今を時めく人気女子アナが前代未聞の記者会見を開いてから早半年が過ぎようとしていた。真凛はあの記者会見の日から、夕方のニュース番組をはじめとするレギュラー出演していたすべての番組を降板し、表舞台から姿を消してしまっていた。それまでも街頭での露出デモ行進や母校の大学講堂での恥辱の対談など、数々の罨に嵌められて醜態を晒してきた真凛だったが、それらは全て何らかの力によってその後すぐに動画共有サイトなどから痕跡は消され、大衆に知られる事はなく大事には至らなかった。しかし、さすがに全国に生中継された記者会見の場で演じた羞恥劇はそういうわけにはいかず、多くの国民が人気女子アナの過激な行為をしつかりと記憶に焼き付けてしまい、

真凜が普通にメディアに露出して業務を遂行  
していく事は難しくなってしまうた。  
そのため、真凜は局のアナウンス室の中  
雑用などの事務作業を行う日々を過してい  
た。あれほどの恥を全国民の前で晒してしま  
った以上、本当はもうテレビ局自体を辞めて  
ほとぼりが冷めるまで、どこか遠く離れた海  
外にでも留学したい気持ちだった。が、弱みを  
握られて、いる大物女性政治家、大場美枝子に  
脅され、それも叶わなかった。  
局の中でも真凜はすっかり浮いた存在にな  
ってしまっていた。あの記者会見以前にもプ  
ロ野球の試合の始球式で大勢の観衆が見守る  
中、全裸を晒すという失態はあったが、その  
時は、悪徳プロデューサーに命じられ無理や  
りバスタオル一枚の姿でスタジアムのマウン  
ドに立たされたのだらうと真凜に同情する社  
員達の方が多かった。しかし、あの記者会見  
の場で見せた羞恥劇は、事情を何も知らない  
者達からすれば明らかに真凜自身が自らの意

思で演じたようにしか見え、もはや真凛はただの淫乱な危ない女性という目で見られてしまっていたのだ。同じテレビ局で働く同僚達の冷たい視線を浴びながら、かつての人気女子アナは一気にただの雑用係へと転落してしまい、真凛は人目の付かない所でいつも一人泣いていた。そしてそんな真凛に追い打ちを掛けたのが、政治家の大場美枝子だった。大場は真凛と定期的に連絡を取り、真凛の卑猥な動画をネタに彼女を脅し、すっかり手なずけていた。日の当たらない場所に追いやられたかつての人気女子アナは、大場にとって自らの政治活動に利用するには格別の存在だった。で、大場の政治活動に参加する事には寛容な姿勢を示し、その行為を咎める事は一切なかった。た。きつと何らかの大きな政治的圧力が働いて、いるに違いない、真凛はそう感じながら、女子アナとしての夢も希望も何処かに置き去



りにしたまま、社会的な地位と権力を有する大場にただ従順に従う日々を過ごしていた。そうして、あの前代未聞の記者会見から半年が過ぎ、真凛に一つの転機が訪れようとしていた。アナウンス室の上司から会議室に呼び出された真凛は、そこでテレビへの復帰を通告されたのだった。思いがけない上司の言葉に真凛は戸惑いを隠せなかった。半年の間、アナウンス室でひたすら雑用をこなすだけの日々を過ごし、真凛はもう二度と自分はいつか誰にも気づかれないままアナウンス室をひっそりと辞めていくのだろうかと思手想像していたのだった。

それがもう一度アナウンス室としてチャンネルを与えられるというのだ。真凛はその実感が込み上げてくると心の中でとても喜んだ。しかし、同時にどうしようもない不安も襲い掛かってきた。記者会見から半年が過ぎたと

はいえ、あれほどの醜態を国民の前で晒してしまつた自分が一体どんな顔で公共の電波に顔を晒せば良いのか、きつと表舞台に戻れば世間から酷いバッシングを受けることは容易に想像ができた。

上司の話によれば、真凜が復帰する舞台は深夜枠のクイズ番組だという事だった。そのクイズ番組についての詳細を記した資料を見せられた真凜は啞然とした。なんと番組タイトルは『タカエリのクイズ天国と地獄』で、MCはあの人気女芸人コンビのタカエリが務めていたのだ。タカエリと言えば真凜にとつては天敵中の天敵で、ドツキリ番組での遭遇から始まつた因縁は、真凜に数々の屈辱劇をもたらしていた。そして彼女達は大物政治家、大場美枝子の直系の後輩でもあり、大場と共に真凜の決して公にされてはならない恥辱の秘密を共有する悪党だった。

そんなタカエリがMCを務める深夜のクイズ番組のゲスト解答者としての出演が、真凜

の半年ぶりの表舞台への復帰の第一歩に指定され、真凛はますます喜びよりも不安の方が大きくなっていた。真凛の不安をよそに上司は一方的に通告を終え、真凛のテレビへの復帰の道筋は着々と準備されていた。あの前代未聞の記者会見を行ったかつての人気女子アナが半年ぶりにテレビに復帰する事が公になると、マスコミは再び半年前のスクandalを蒸し返して騒ぎ立てた。あの知的で清楚なイメージの強かった小川真凛が、あれだけの醜態を国民の前で晒しておいて一体どんな顔して再びメディアに復帰するのか、世間はかつての人気女子アナの再臨の待ちわび、ネットの世界ではあの記者会見の動画が再び拡散され、大いに盛り上がっていた。真凛はそんな世間の雑音に押し潰されそうになりながらも、これを再び人気女子アナとして返り咲く絶好の機会に変えてみせようと次第に決意を固め始めていた。例えどんな困

難があつたとしても、それを乗り越えて再び  
女子アナの女王の座に返り咲く事こそ、唯一  
無二の存在である人気女子アナ小川真凜の真  
骨頂だと考えた。  
私は絶対にもう一度人気ナンバーワン女子  
アナの地位に返り咲く、そして今度こそ不動  
の人氣を勝ち取る、だから私は絶対に負けな  
い。復帰の時間が近づくにつれて、真凜は自身  
を鼓舞するかのうちに、失われていたプライ  
ドを次第に取り戻していくのだつた。  
真凜の復帰の舞台となるタカエリがMCを  
務めるクイズ番組は、深夜の三十分番組で毎  
週一組の女性ゲストがクイズに挑戦するとい  
う内容だつた。ただ、番組タイトルに『天国  
と地獄』とあるように、そのクイズ番組は女  
芸人コンビタカエリの下ネタの芸風を象徴す  
るようなお色気要素が満載で、毎回ゲスト解  
答者の女性には必ずスカートを穿いて登場し、  
問題を一問間違える度に、スカートの丈を五

センチずつタカエリにハサミで切られていく企画になつていた。クイズは全部で十問出題され、これまでに番組に出演したゲスト解答者の中で一番酷かったのは、売出し中の二十歳のグラビアアイドルで、彼女は十問中たつたの一間しか正解できず、穿いていたミニスカートをほとんど切り落とされてしまい、身に付けていた下着が丸出しになつてしまつたのだった。しかも、問題の回答数がある一定の基準を満たさなければとんでもない罰ゲームも用意されており、そのグラビアアイドルの子は、パンティ丸出しの恰好でスタジオのど真ん中で一人アカペラで歌まで披露させられてしまつたのだった。

そんな下ネタ要素満載のクイズ番組のため番組がスタートしてまだ三カ月ほどだったが、熱狂的な男性のファンが多く、深夜帯にしてはまずまずの視聴率を誇つていた。そして、これまでタカエリのクイズ番組に出演したゲスト解答者達は、番組の性質上、売出し中の

グラビアアイドル、アイドルの卵、それほど売れているモデルなどがほとんどだった。彼女達は皆、売れるために必死な子達ばかりで自前のスカートをハサミで切られる屈辱や、それによって自前の下着を晒される羞恥にも懸命に耐え、そんな健気な姿が多く視聴者の共感を生んでいたのだった。

真凛はいよいよ目前に迫った番組収録のため、打ち合わせに会議室に呼ばれていた。真凛が一人そわそわしながら待っている、会議室の扉が開き、あの忌まわしい二人組が現れたのだった。  
「久しぶりじゃん、元気だったあ？」  
真っ先に真凛に声を掛けてきたのは、キツネ目をしたタカエリのボケ担当のエリコだった。「また一緒に仕事するなんて、私達よっぽど腐れ縁があるんだねえ」  
続いて声を掛けてきたのは、ツツコミ担当の貴子だった。

「ご、ご無沙汰してます・・・」  
真凜は二人との久しぶりの再会で忌まわしい  
記憶が一気に蘇り、緊張のあまり声を震わせ  
た。  
「それにしても、私達の番組に出演OKして  
くれてありがとう。アンタのおかげでネットは  
もう大騒ぎになってるわよ。この調子だとア  
ンタが出演する回は番組史上最高の視聴率を  
記録するんじゃないかしら」  
エリコは不敵な笑みを浮かべながら、真凜を  
見つめた。  
「ホント楽しんだわ。真凜ちゃんの事だから  
きつとあの記者会見の時のように大胆な事し  
て番組盛り上げてくれるんだろうなあ。期待  
してるわよ」  
貴子もまた不敵な笑みを浮かべると、真凜の  
顔をじっと見据えた。  
二人とも、自分達の冠番組を盛り上げるた  
めに真凜を最大限に利用する魂胆がヒシヒシ

と伝わってきて、真凛は背筋が凍りつく思いがした。  
「ところでアンタ、私達の番組出演をきつかけにまたテレビに復帰するつもりなんですよ。でもない。昔のような報道番組とかは無理なんじゃない。あれだけ世間に恥を晒したんだから、誰もアンタの事を清楚で知的な美人女子アナなんて目では見ないわよ」  
「そうそう、あの記者会見はほんと日本中に衝撃を与えたものね。私達女芸人でもあそこまで過激な真似はできないから、ある意味アナタの事は尊敬するわ。あれだけの根性があるなら、これから女子アナじゃなくて私たちみたいないな汚れ芸人になればいいのよ」  
貴子とエリコは笑いながら真凛を囁し立てた。真凛はじつと唇を噛みしめ耐えるしかなかった。位置に絶対に昇り詰めて見せる、そんな心の奥底にある強い思いを彼女達に伝えるつもりはさらさらなかった。いつかアナタ達みたい



なドブ芸人なんか見返して上げるわ、そして二度とアナタ達なんか近づく事もできないポジションについてみせる、真凜は心の中でそう強く叫んでいた。

やがて、会議室には番組プロデューサーなどの関係者達が集まってきて、真凜の出演する回の打ち合わせが始まった。そこで配られる資料によれば、真凜の出演する回は番組始まって以来初のスペシャルという事で通常三十分の枠がなんと一時間に拡大されて放送されるという事だった。そのため、出題されるクイズの問題の数もレギュラー時の二倍の二十問となり、不正解が多い場合の罰ゲームも通常よりもグレートアップされたものが企画されているらしいかった。

打ち合わせで淡々と語られる番組内容に、真凜は次第に不安を募らせていった。一体どんな罰ゲームが用意されているのかも気になったが、それよりもつと気になった事があった。それは、出題されるクイズの問題数がつた。

倍になつたという事は、その分間違える問題の数も増える可能性が高くなるのだ。下ネタ要素満載な番組の卑猥なルールである一問間違える度にスカートの丈を五センチ切られるという事から考えれば、スカートがその分たくさん切られて、中に穿いている下着を晒す確率も高くなるのではないかという心配があった。真凛は堪らずその点について関係者達に質問を投げかけた。すると、プロデューサーの男は、不安げな様子の真凛を楽しそうに見ながら答えた。――心配しなくても大丈夫だよ。真凛ちゃんみたいなのは頭の良い知的な女子アナさんだったから全問正解するくらい簡単な問題しか出さなないからさ。むしろ番組を盛り上げるためにわざと何問か間違えて欲しいくらいだよ。プロデューサーの男はそう言うとき、チラッとカエリの方を向いて意味深な笑みを浮かべた。

「それから収録の時は真凜ちゃんにはワンピースを着て出演してもらおうのでよろしく」  
プロデューサーの男が最後に付け加えたその言葉は一体何を意味するのか、その時の真凜には知る由もなかった。  
やがて、打ち合わせが終わると番組スタッフ達は皆、意味深な笑みを浮かべて真凜の方を見ながら会議室を出ていった。彼らはきつと何かを企んでいる。真凜はその時はつきりとそう確信した。しかし、一体何を企んでいるのかは、本番の収録時にならないと分からなかった。  
どんな事があっても私は絶対に乗り越えてみせる、そして不死鳥のように再び人気女子アナとして華々しい世界に蘇ってみせる、真凜は自分自身に何度もそう言い聞かせ、挫けそうになる心を奮い立たせていった。

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不祥事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>